POD® HD - DTシリーズ

L6 LINK™ 接続ガイド

L6 LINK™を使った
POD HD300、POD HD400、POD HD500、POD HD Proと
DTシリーズのアンプのオーディオ&コントロール接続

目次

概要 ..... 1•1

POD HDとDTの組み合わせ ..... 1•1
Line 6 Monkey ™ ..... 1•2
POD HD300 & POD HD400 ..... 1•2
POD HD500 & POD HD Pro ..... 1•2
ドリーム・リグ（The Dream Rig） ..... 1•3

POD® HD300 & POD® HD400 ..... 2•1

クイック・スタート ..... 2•1
2台のDTシリーズのアンプに接続する ..... 2•2
DTシリーズのアンプ－AとBの操作 ..... 2•4
POD HDディバイスの背面パネルの接続とオプション ..... 2•7

POD® HD500 & POD® HD Pro ..... 3•1

クイック・スタート ..... 3•1
複数台のDTシリーズのアンプに接続する ..... 3•3
各DTシリーズのアンプへのオーディオ信号を設定する ..... 3•3
システムMIDIチャンネル ..... 3•5
各DTシリーズのアンプのコントロール・オプションの設定 ..... 3•6
複数台のDTアンプの設定例 ..... 3•10
POD HD 500およびPOD HD Proの接続とオプション ..... 3•12

DTシリーズのアンプ ..... 4•1

DTシリーズのアンプのパラメータ ..... 4•1
DTシリーズのアンプの追加機能 ..... 4•4
MIDIインプリメンテーション ..... 4•6

Line 6、POD、DT50、DT25、Variax、James Tyler, Vetta、L6 LINKおよびLine 6 Monkeyは、Line 6 Inc.の登録商標です。その他の全ての製品名や商標名、アーティスト名は各社が所有しており、Line 6との関連や提携関係はありません。製品名や画像、アーティスト名は、Line 6が本製品向けにサウンド・モデルの開発を行った際に研究したトーンやサウンドを識別するためにのみ使用されています。これらの製品や商標、画像、アーティスト名の使用は、協力関係やエンドースを暗示するものではありません。

概要

このガイドでは、Line 6のPOD® HD300、HD400、HD500およびHD Proデバイスと Line 6 DT50 ™およびDT25 ™アンプを接続する革新的な新機能**L6 LINK™**の特徴を説明します。柔軟にカスタマイズ可能であるようにアンプやエフェクトを一体化させる、今までにない最適な方法です。以下のURLで入手できるPOD HD、DTシリーズのアンプの追加マニュアルもぜひご覧ください。
www.line6.jp/support/manuals/

POD HDとDTの組み合わせ

真空管アンプのエキスパートであり、トーン・グールーでもあるReinhold Bognerがデザインした Line 6 DTシリーズのアンプは、再構成可能なアナログのコンポーネントとHDモデリング技術がパワフルに組み合わされています。全てのモデルはスタンドアローンの2チャンネル・ギター・アンプとして使用できるほか、L6 LINK接続で上記のPOD HDデバイスと組み合わせて使用することもできます。

- DT50 ™ー真空管EL34搭載の50/25ワットの112および212のコンボ、またはアンプヘッド。
- DT25 ™ー真空管EL84搭載の25/10ワットの112のコンボまたはアンプヘッド。

L6 LINKを使ったPOD HDとDT50の接続

L6 LINKでは、XLRケーブル1本でPOD HDデバイスとDTアンプ間にオーディオやデータを双方向にストリームすることができます。DTアンプは、アナログ・コンポーネントのコンフィギュレーションをPOD HDアンプやプリアンプ・モデルのセッティングに自動的に「適応」させます。これらのセッティングを変更し、簡単にカスタム・ユーザー・コンフィギュレーションを作成することも可能です。全てのPOD HDおよびDTアンプのセッティングはPOD HDのプリセットとして保存でき、無数のカスタマイズ・セッティングから瞬間的に呼び出すことができるのが最大の利点です。

Line 6 Monkey ™

POD HDとDTシリーズのアンプの最新のドライバーとソフトウェア（ファームウェア）が提供されるように、Line 6 Monkeyをインストールしておくことを強く推奨します。Line 6 Monkeyは、こちら（http://line6.jp/software/）から無料でダウンロードできます。

Line 6 POD HD Editソフトウェア

POD HD Editはパワフルなエディター／ライブラリアン・ソフトウェアであり、Mac®やWindows®コンピューター上でPOD HDのプリセットを簡単にカスタマイズやバックアップ、ストア、共有できます。DTのトポロジー・パラメーターもPOD HD Edit内のプリセットから制御できますので、POD HDとDTシリーズのアンプとの組み合わせを行いながら設定の呼び出し、エディット、リコールなどの作業を行うことができます。お使いの機器に対応するPOD HD Editを入手するには、Line 6 Monkeyを起動して［Update］タブからダウンロードするか、以下のURLから直接ダウンロードしてください。
http://line6.jp/software/

POD HD300 & POD HD400

POD HD300とPOD HD400は、LP6 LINK経由で最大2台のDTに接続することができます。2台のDTアンプを接続すると、自動的にL/Rに設定され、広がり感のあるトーンを表現できます。詳しくは［2•1］ページの「POD® HD300 & POD® HD400」をご覧ください。

POD HD500 & POD HD Pro

POD HD500は、LP6 LINK経由で最大4台のDTシリーズのアンプに接続することができます。2台以上のDTアンプを使用する場合は、POD HDの出力チャンネルやデュアル・アンプ・モデルのオーディオ・シグナルを各DTアンプへ独立アサインできるため、様々なマルチアンプの設定が可能となります。詳しくは［3•1］ページの「POD® HD500 & POD® HD Pro」をご覧ください。

ドリーム・リグ（The Dream Rig）

さらに、POD HD500およびPOD HD Proデバイスには Variax®デジタル・インターフェース（VDI）インプットが装備されており、Line 6 Variaxギターおよびベースの全製品をサポートしています。James Tyler® Variax®エレクトリック・ギター、POD HD500または POD HD ProとDTシリーズのアンプを組み合わせることで、Line 6が「ドリーム・リグ」と呼んでいるシステムを構築することができます。このセッティングを使えば、既述のアンプおよびFXのモデリングやL6 LINK接続に加え、James Tyler® Variax®のギター・モデリングおよびオルタネート・チューニング機能をカスタマイズして各PODのプリセットに保存することができます。FX、アンプのセッティング、ギターのモデリングやチューニングを全てフットスイッチ一つで呼び出せる環境を想像してみてください！　James Tyler® Variax®ギターの詳細はhttp://line6.jp/guitars#jamestylervariaxをご覧ください。

ドリーム・リグ：James Tyler® Variax®＋POD HD500/HDPro＋DTシリーズ・アンプ

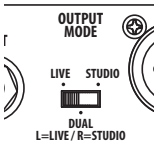
POD® HD300 & POD® HD400

この章では、POD® HD300またはPOD® HD400をL6 LINK™経由で最大2台のDTシリーズのアンプと接続する方法について解説します。別途記載されている場合を除き、POD HD300とPOD HD400に関する説明は共通しています。同様に、L6 LINKで使用するDT50™やDT25™アンプも互換性があるため、別途記載されている場合を除き操作の説明や扱いは共通です。なお、各機種に搭載される機能の詳細については「**POD HD300 & POD HD400アドバンスド・ガイド**」(www.line6.jp/support/manuals) をご覧いただくことをお勧めします。

クイック・スタート

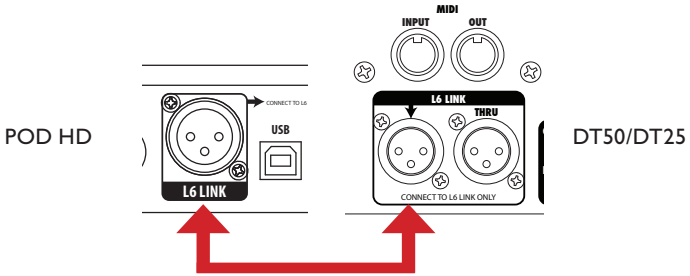
新しいリグを試したくて待ちきれないことと思います。とり急ぎ、POD HD300/HD400とDTシリーズのアンプを接続して動作させるための手順を紹介します。詳細については、追って説明します。まずは、すべてのデバイスを電源オフするところからはじめましょう。

- DTアンプに適切な信号を送るために、POD HDの**OUTPUT MODEスイッチ**を**Liveモード**に変更します。



POD HD300/HD400の背面に用意された3段切り替えのOUTPUT MODEスイッチ

- POD HD L6 LINKからDTアンプのL6 LINK INへ直接XLRケーブルを接続してください。ほとんどのXLRケーブルで問題なく動作するはずですが、XLRケーブルの製造工程や品質にはばらつきがあるため、全てのXLRケーブルでの動作は保証できません。



XLRケーブルを使ってL6 LINK接続

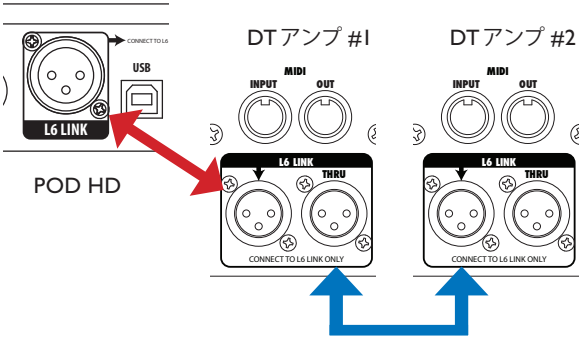
- POD HDの電源をオンし、お好きなプリセットを呼び出します。**PRESETS**ノブを押してエディット・モードに入り、**AMP：Model**のオプションから「**Preamp**」を選択します。外部の真空管アンプへアウトプットを送る際にはAmp Model内のPreampバージョンをお勧めします。

AMP Modelに「Preamp」セッティングを選択

- DTアンプの電源をオンにすると、自動的にPOD HDを検出し、チャンネルAに切り替わります。
- お気に入りのリフをかき鳴らしてみてください。POD HDトーンが真空管アンプ独特のサウンドでDTアンプから再現されます。
- POD HDのAMP Toneノブや、DTのチャンネルAを調整すると、POD HDとDTのコントロールが“シンク”していることを確認できます。

2台のDTシリーズのアンプに接続する

2台目のDT50またはDT25に接続するには、XLRケーブルをもう1本用意し、1台目の**L6 LINK THRU**端子から、2台目の**L6 LINK IN**端子に接続します。2台のアンプは自動的にステレオとして動作します。1台目のDTアンプは左チャンネル、2台目は右チャンネルを受信します。



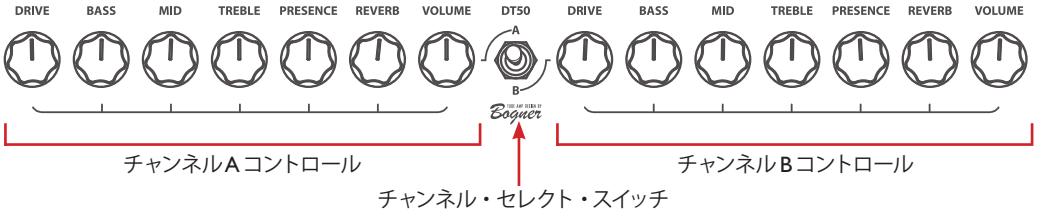
POD HDのAmp/Preampモデルがオンになっている場合、2台のDTシリーズのアンプはPOD HDのAmp Modelによるオーディオを受け取り、真空管アンプのアナログ・コンポーネントを自動的に最適化します。POD HDのAMP Toneノブや DTアンプのチャンネルAを調整すると、POD HDとDTが完全に連動していることを確認できます。

POD HDと2台のDTシリーズのアンプをL6 LINKを使ってステレオで接続

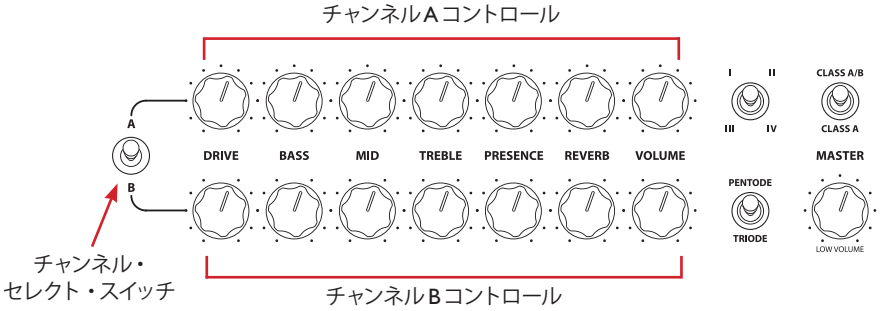
POD HDと2台のアンプをこのように接続すると、2台目のDT50/DT25は、1台目のDT50/DT25の設定を継承します。詳しくは、追って説明します。

2台、またはそれ以上のDTシリーズをPOD HDを使わずにL6 LINKで接続する場合でも、DT同士はシンクします。詳しくは、DTシリーズのアンプのガイドをご覧ください。

DTシリーズのアンプーAとBの操作



DT50のチャンネルAとBのコントロール



DT25のチャンネルAとBのコントロール

DT50およびDT25（複数台がL6 LINKで接続されている場合は、その全てのDTシリーズのアンプ）は、お使いのPOD HDのAMP ModelモードのON/OFFによって、チャンネルA／チャンネルBが自動的に切り替わります。またDTアンプの各チャンネルは、POD HD300およびPOD HD400のAmp ModelのAmp Toneノブやトポロジー・セッティングにシンクするよう、以下のように動作します：

-

POD HDの**AMP**フットスイッチ：**AMP**フットスイッチをON（点灯）にすると、DTアンプはチャンネルAに切り替わります。OFF（消灯）にするとチャンネルBに切り替わります。

注意：AMPスイッチの状態は、POD HDのプリセットに保存されますが、逆にプリセットを呼び出すときには、DTアンプのチャンネルセッティングに影響を与えます。

-

POD HDの**FX Only**モード：**FX Only**モードをアクティブにするとアンプ・モデルが無効になり、DTアンプはチャンネルBに切り替わります。
- DTアンプの**チャンネル・セレクト・スイッチ**：DTアンプのフロントパネルのチャンネルA&Bの間にあるチャンネル・セレクト・スイッチを切り替える（または、A/Bフットスイッチを使用）ことで、チャンネルAがアクティブなとき、POD HDの**AMP**スイッチが点灯します。
- 2台のDTシリーズが接続されているときには、2台同時にチャンネルが切り替わります。

次の項では、L6 LINK接続がアクティブなときのDTアンプのチャンネルAとBの挙動について説明します。

DTシリーズのアンプ－ Channel A

チャンネルAがアクティブな場合、POD HDをDTアンプに接続して使用しても、POD HDのアンプとエフェクトがDTアンプから鳴ること以外は、接続していない場合とそれほど違いはありません。複数台のDTアンプを接続する場合は、以下のような動作が2番目のアンプにも適用されます。

- POD HDでAmp/Preamp ModelがONの時、DTアンプのチャンネルAは、アナログ・コンポーネントを自動的に最適化し、動作クラス（クラスA/クラスAB）やバイアス方法、フィードバック・トポロジー、パワー管モード（3極管/5極管）などの構成を変更します。
- Ampトーン・ノブとPresenceパラメーターは、POD HDとDTアンプのチャンネルAの間で連動します。POD HDやDTアンプの設定を変更すると、POD HDで選ばれているプリセットが変更されます。
- DTアンプのフロントパネルの、**ボイシング・スイッチ**、**CLASS A/CLASS ABスイッチ**、**PENTODE/TRIODEスイッチ**は手動で切り替えることができ、それはチャンネルAに影響します。こうした変更はDTアンプのアナログ回路内で起こりますが、POD HDの設定として保存されます。これについては、[4•1] ページの「DTシリーズのアンプのパラメータ」をご覧ください。
- DTアンプでチャンネルAが選択されているとき、アンプのリバーブは無効になりますが、アンプのチャンネルAの**REVERB**ノブを回すと、POD HDの**REVERB** Mixに影響します。つまり、どちらからもReverb Mixをコントロールできますが、そのサウンドはPOD HD上で設定したReverb Modelということになります。
- マスター・ボリューム設定は連動しません。POD HDのマスター・ボリュームを変更しても、DTアンプには影響しません。最終的な音量調整は、DTアンプのMaster Volumeノブで行ってください。

DTシリーズのアンプ－ Channel B

POD HDでAmp/Preamp Modelの設定がOFFの時、DTシリーズは自動的にチャンネルBに切り替わります。トーンやその他の設定はDTアンプ上でのみ決定され、エフェクトはPOD HDによるものになります。チャンネルBのコンフィギュレーションは、POD HDがフル機能のマルチエフェクト・ディバイスとして機能し、DTアンプがサウンドの全てのPreampとパワー・アンプの部分を提供すると考えてください。

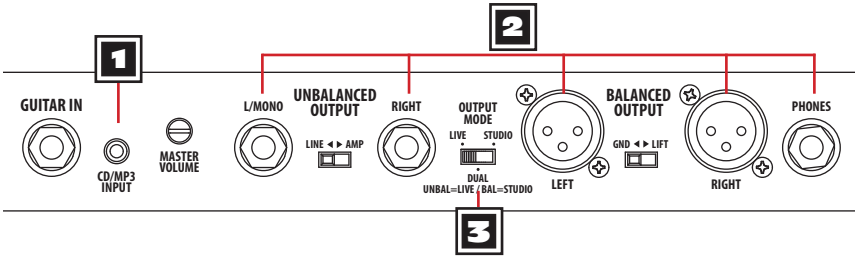
- DTアンプのチャンネルBの各種ノブ、**ボイシング・スイッチ**、**CLASS A/CLASS ABスイッチ**、**PENTODE/TRIODEスイッチ**はDTアンプでのみ有効です。アンプ上での調整はPOD HDでのプリセットには影響しません。チャンネルBのノブやスイッチの位置は、常に実際の設定に影響します。つまり、アンプ・パネルの設定がそのまま反映されます。
- 同様に、POD HDのAmp/Preamp Modelのオーディオやコントロールの設定はDTアンプのチャンネルBには送られないため、POD HD上での調整はDTアンプにはまったく影響しません。
- FX1、FX2、FX3、Reverb*モデルとその設定はPOD HDからDTアンプへ送られるL6 LINKのオーディオ信号へ適用されるため、POD HD上でこれらのFX設定を変更すると、それがDTアンプのチャンネルBに影響を与えます。

***注：DTシリーズのアンプのチャンネルAの振る舞いとは異なり、POD HDとDTアンプのチャンネルBのReverb FXはそれぞれ有効であり、各ディバイスで独立調整できます。POD HDのReverbはPOD HDのPreset内に保存されるため、DTアンプのチャンネルBのReverbノブはオフにして、POD HD上のReverbだけを使用するのがベストでしょう。**

- DTアンプでチャンネルBが選択され、2台のDTシリーズが接続されている場合、2台目のDTアンプは、1台目の**ボイシング・スイッチ**、**CLASS A/CLASS ABスイッチ**、**PENTODE/TRIODEスイッチ**の設定とシンクします。
- 2台のDTアンプが接続されているとき、チャンネルBの各種ノブやボイシング・スイッチは、2台のDTアンプ間で連動します（1台目から2台目へL6 LINKで接続）。Master Volumeノブは、それぞれ独立して動作します。

POD HDディバイスの背面パネルの接続とオプション

DTシリーズのアンプへL6 LINK経由で接続した場合に、POD HD300/400のデバイスの背面パネルの接続や切り替えオプションの設定は若干異なる挙動になります。



POD HD300/HD400の背面パネルの接続

1 CD/MP3 Input

接続されたCDやMP3プレイヤーなどの外部ディバイスからの音源はPHONES、UNBALANCED OUTPUT、BALANCED OUTPUTなどのアナログ出力から聴くことができます。POD HDのMaster Volumeノブで音量を変更できます。このオーディオはL6 LINK出力へは送られません。

2 PHONES、UNBALANCED OUTPUT、BALANCED OUTPUT

PHONES、UNBALANCED OUTPUT、BALANCED OUTPUTなどの出力端子からのアナログ信号はL6 LINK接続がアクティブなときにも提供され、同時に使用できます。そのレベルはPOD HDのMaster Volumeノブを使ってコントロールできますが、L6 LINK－DTアンプのレベルはコントロールできません。

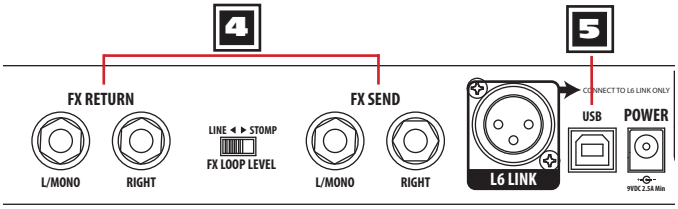
注：POD HD＋DTシリーズのアンプをお使いの際、PAシステムにライン信号で送る場合やレコーディングのために直接アナログ信号を出力したい場合には、DTアンプ背面のDIRECT OUT**を使ってください（[4•5] ページをご覧ください）。**

3 OUTPUT MODE

クイック・スタートでご説明している通り、OUTPUT MODEスイッチのセッティングは、POD HDからの全てのアナログ出力に影響します。DTアンプでチャンネルAが選択されている際の、POD HDからDTアンプへの信号についてもOUTPUT MODEスイッチは同様に動作します。

- **OUTPUT MODE**スイッチを**LIVE**または**DUAL**に設定すると、LIVEモード信号がDTアンプのチャンネルAに送られます*。
- **OUTPUT MODE**スイッチを**STUDIO**に設定すると、STUDIOモード信号がDTアンプのチャンネルAに送られます。

***注：トーンの実験に関してはルールなどありませんが、L6 LINKでDTシリーズのアンプと接続する場合はLIVEモードをお勧めします。STUDIOモードではダイレクト・レコーディング用に異なるキャビネット、マイク、EQが用意されていますが、もちろん試してみてもいいでしょう。**



POD HD400の背面パネルの接続

4 エフェクト・ループ（POD HD400のみ）

L6 LINK接続を使用している際にもPOD HD400の各プリセットでエフェクト・ループとそのオプションを使うことができます。

5 USB Audio

POD HD300/HD400でL6 LINKが有効になっている場合、全てのUSBオーディオはミュートされます。USB MIDI機能はフルに使用できるため、POD HD Editソフトウェアを活用することや、USB MIDI In/Outポートへのアクセスも可能です。

POD® HD500 & POD® HD Pro

この章では、POD HD500またはPOD HD ProをL6 LINK経由で最大4台のDTシリーズのアンプと接続する方法について解説します。別途記載がある場合を除き、POD HD500とPOD HD Proの説明は共通しています。同様に、別途記載がある場合を除きDT50™とDT25™の機能性は全く同じです。POD HD500およびPOD HD Proの機能についてはオンラインで提供されている「**アドバンスド・ガイド**」(www.line6.jp/support/manuals）をご覧ください。

クイック・スタート

新しいリグを試したくて待ちきれないことと思います。とり急ぎ、POD HD500/HD ProとDT50を接続して動作させるための手順を紹介します。詳細については、追って説明します。

- POD HDで好みのプリセットを選択します。
- まずはシンプルに始めるため、PODのAmp Model Aのみを使用しましょう。Amp Model Bがアクティブな場合にはオフにします。
- Amp A Blockを選び、いずれかの**Preamp** Modelを選択します。これは外部の真空管アンプに接続する際に推奨されるAmp Modelです。

Amp ModelにPreampを選択

- **SETUP－L6 LINK：AUDIO**画面で、「AMP 1」には「LEFT/RIGHT」を選択します。これによって、POD HDのシグナルを両チャンネルの最後でキャプチャーし、それを最初に接続されたDTシリーズのアンプに（あるいは接続されているDTアンプだけに）送ることができます。

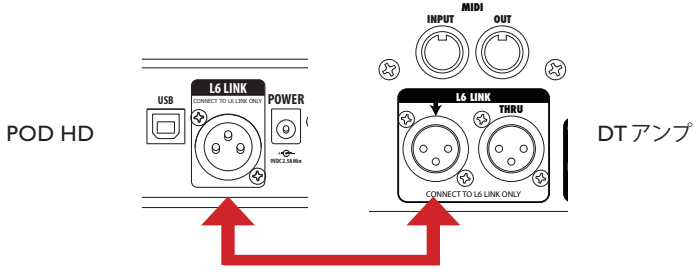
L6 LINK：AUDIO画面で「AMP 1」に「LEFT/RIGHT」を選択

- **Setup－L6 LINK：CONTROL**画面で「AMP 1」を「AMP A（CH1）」に設定します。これによって、最初に接続されたDTアンプ（あるいは接続されているDTアンプだけ）をPOD HDのAmp Model A（あるいはMIDIチャンネル1）にシンクします。

L6 LINK Control画面で「AMP 1」を「AMP A（CH1）」に従うように設定

- XLRケーブルを1本使用して、POD HDの**L6 LINK**端子からDTアンプの**L6 LINK IN**端子に直接接続します。

接続は標準のXLRマイク・ケーブルでも作動しますが、デジタル接続であるため、AES/EBUケーブルを使用することをお勧めします。

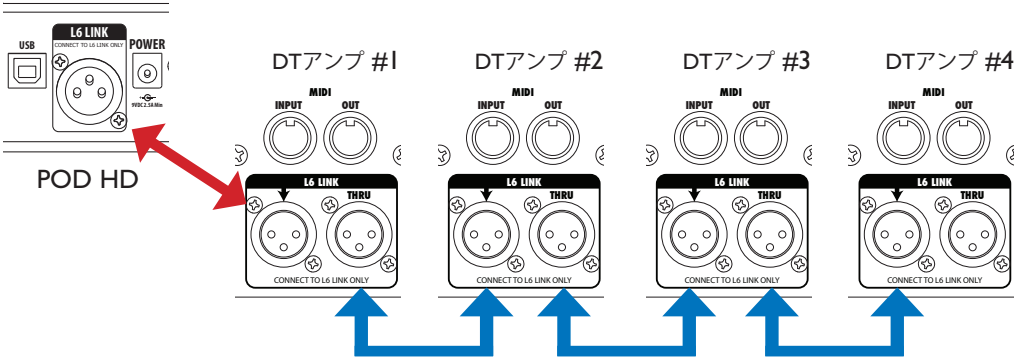


XLRケーブルを使ったL6 LINK接続

- DTアンプの電源をオンにすると、自動的にPOD HDとプリセットの“Amp A” Preamp Modelが検出され、真空管パワー・アンプのオプションが自動的に設定されます。
- DTアンプのMaster Volumeノブを回して音量を調整し、リフをかき鳴らしてみてください。POD HDトーンが真空管アンプ風味たっぷりにDTアンプで再現されます。
- POD HDのAmp Toneノブの調節、またはDTアンプのチャンネルAを調整をすると、**どちらからも**POD HD Amp Model Aセッティングがコントロールされていることが分かります。

複数台のDTシリーズのアンプに接続する

2台目のDTシリーズのアンプに接続するには、XLRケーブルをもう1本用意し、1台目のアンプの**L6 LINK THRU**端子から2台目の**L6 LINK IN**端子に接続します。下図のように最大4台のDTシリーズのアンプに接続できます。



POD HD500およびHD Proを最大4台のDT50およびDT25へL6 LINK接続

POD HD500/HD Proと2台以上のDTアンプをL6 LINK接続すると、POD HD Amp Modelは全てのDTシリーズのアンプとシンクします。詳しくは追って説明します。

> **2台以上のDTシリーズのアンプをPOD HDを使わずにL6 LINK接続する場合も、全てのDTシリーズのアンプ同士がシンクします。詳しくは、全てのDTシリーズのアンプのガイドをご覧ください。**

各DTシリーズのアンプへのオーディオ信号を設定する

クイック・スタートで触れたように、最大4台のDTシリーズのアンプに対して、オーディオ信号とコントロールやシンクの動作を独立して設定できます。この操作は、POD HD500/HD Proの**SETUP – L6 LINK**画面で行います。

SETUPページの「**L6 LINK：AUDIO**」画面を開き、POD HDのオーディオ信号のルーティングを設定します。これはPOD HDのプリセットへ個別に保存できます。

- マルチ機能ノブ1-4を使って、各DTシリーズのアンプへ送るPOD HDのオーディオ信号を選択します。「AMP 1」はデイジーチェーン接続された先頭のDTアンプのパラメーターに対応し、「AMP 2」は2番目、という要領でアサインされます。各DTアンプには以下のオプションを設定できます。

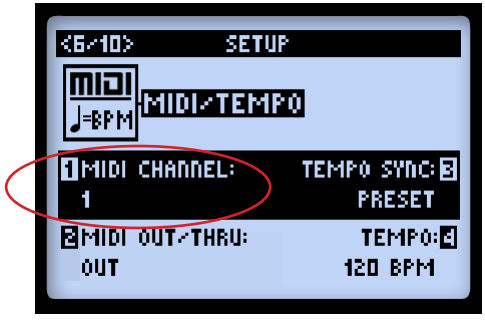
  - 「**L**」、「**R**」、「**Left/Right**」は、それぞれ、左チャンネルのみ、右チャンネルのみ、左チャンネル／右チャンネル（モノにミックス）の意味です。この信号はPOD HDのシグナル・パスの一番最後から取られていますので、有効なエフェクトやアンプ・モデルが全て反映しています（POD HDのミキサー・ブロックを使って、出力の際のパン設定も可能です）。

  - 「**Amp Model A**」、「**Amp Model B**」、「**Amp A/B**」は、シグナル・フロー内の場所に関わらず、各Amp Modelからダイレクトに出力します。このオーディオ信号には、Amp Modelの前に置かれたFX Modelも含まれていますが、Amp Modelの後ろに置かれたFX Modelは含まれません。

プリセット中で1つのAmp Blockしか使っていない場合、“Amp B”は存在しません。この場合は、上記のSetup画面で、AMP 1からAMP 4のオプションで“Amp Model B”に設定されたものから、Path Bの最後からの信号が、対応するDTシリーズのアンプへ出力されます。

システムMIDIチャンネル

POD HD500/HD ProのL6 LINK：CONTROLの説明の前に、L6 LINKがMIDI信号をどのように扱うかを理解しておきましょう。POD HDのSETUPページの「MIDI/TEMPO」画面でシステムMIDI CHANNELを設定することができます。



The SETUP－MIDI/TEMPO画面で“システム”MIDI CHANNELを選択

POD HD500/HD ProとDTシリーズのアンプをL6 LINK接続する際、ノブの位置やスイッチの設定などのコントロール情報はMIDI信号でやりとりされます。「**L6 LINK：CONTROL**」画面では、それぞれのDTアンプがどのMIDIチャンネルを利用するかを個別に設定できます。**L6 LINK：CONTROL**は、次のようにシステムMIDIチャンネルを扱います。

- POD HDの「Amp Model A」コントロール・データは、常にシステムMIDIチャンネルへ送られます（SETUP：MIDI/TEMPO画面で設定でき、初期設定ではMIDIチャンネル1です）。
- POD HDの「Amp Model B」コントロール・データは、常にシステムMIDIチャンネル＋1へ送られます（SETUP：MIDI/TEMPO画面で設定でき、初期設定ではMIDIチャンネル2です）。
- その他のMIDIチャンネルは、DTアンプ間のコントロール・データに用いられます（追って説明します）。

SETUPページの「MIDI/TEMPO」画面でMIDIチャンネルを変更すると、「L6 LINK：CONTROL」にも反映されますので、「L6 LINK：CONTROL」の設定をする前に、まずはシステムMIDIチャンネルを設定しておくとよいでしょう。

各DTシリーズのアンプのコントロール・オプションの設定

SETUPページの「L6 LINK：CONTROL」画面では、POD HD500/HD Proと接続されたDTシリーズのアンプ間でのシンク動作を設定します。特殊なL6 LINK Audioのパラメータを設定する（例えば一つのソースから4つのDTアンプをモノで鳴らす）場合、コントロール・パラメータを全て同じMIDIチャンネルに設定することで求める効果が得られます。これらの設定は個別にPOD HDのプリセットに保存されるので、多数のマルチ・アンプ設定を作成し、いつでも呼び出すことができます。

POD HD500/HD ProのSETUPページの「L6 LINK：CONTROL」画面

マルチ機能ノブ1-4を使って、接続された最大4台のDTシリーズのアンプ用のPOD HD Amp ModelかMIDIチャンネルを指定します。

- **AMP A (CH 1)**：各DTシリーズのAmp Model AをPOD HDのAmp Model Aにシンクします（DTシリーズのアンプChannel A & B設定については［3•8］ページの「DTシリーズのアンプのチャンネルAとBの操作」をご覧ください）。
  - DTアンプは、POD HDのプリセットのAmp Model Aにマッチするよう、真空管パワー・アンプのトポロジー（Class A/Class AB、ボイシング、Pentode/Triode）を自動的に設定します。
  - DTアンプのチャンネルAと、POD HDのAmp Model Aのノブの値（Drive, Bass, Mid, Treble, Presence & Volume）はシンクします。
  - POD HDは、画面表示の（　）の中に表示されているMIDIチャンネルを使います。「(CH1)」と表記されている場合には、システムMIDIチャンネル1を使います。詳しくは、［3•5］ページの「システムMIDIチャンネル」をご覧ください。

- **AMP B (CH 2)**：各DTアンプのチャンネルAをPOD HDのAmp Model Bにシンクします。
  - DTアンプのチャンネルAは、POD HDプリセットのAmp Model Bにマッチするよう、真空管パワー・アンプのトポロジーを自動設定します。
  - DTアンプのチャンネルAと、POD HDのAmp Model Bのノブはシンクします。
  - POD HDのシステムMIDIチャンネルがMIDIチャンネル1の場合、MIDI**チャンネル2**（POD HDのシステムMIDIチャンネル＋1）が使用されます。
- **MIDI CH XX**：各DTアンプのL6 LINK－MIDI Channelには、Amp Model AとAmp Model Bに自動設定されたもの**以外の**MIDIチャンネルを設定できます。複数台のDTアンプを同じMIDIチャンネルへ設定すると、そのフロント・パネル・コントロールはシンクします。

注意：他社製のMIDIコントローラー・デバイスでDTアンプをコントロールすることもできます。MIDIコントローラーのMIDIチャンネルを設定し、DTアンプの5ピンMIDI INにコントローラーを直接接続するだけです。

L6 LINK Controlに関する補足事項

SETUPページの「**L6 LINK:CONTROL**」画面で「AMP A」または「AMP B」が選択されているとき、次に挙げるようにPOD HDのアンプモデルと各DTシリーズのアンプのチャンネルAはにシンクします。

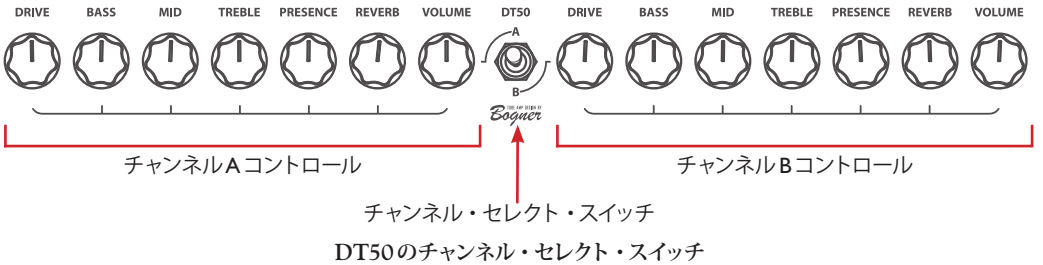
- DTアンプのフロント・パネルの、**ボイシング・スイッチ**、**CLASS A/CLASS ABスイッチ**、**PENTODE/TRIODEスイッチ**を手動で切り替えると、それはチャンネルAに影響します。これらはアナログ回路内で起こりますが、POD HDでの設定として保存されます。これについては、[4•1] ページの「DTシリーズのアンプのパラメータ」をご覧ください。
- DTアンプでアクティブなチャンネルの**REVERB**ノブを回すと、DTアンプ内蔵のReverbを独立コントロールできます。これらはPOD HDプリセット内のReverbモデルには影響しませんので、DTアンプのReverbを利用するか、POD HDのトーンへReverbモデルを追加することができます。
- **MASTER VOLUME**の設定は連動しません。POD HDのMaster VolumeはDTアンプには影響しません。最終的な音量調整は、各DTアンプのMaster Volumeノブで行ってください。

DTシリーズのアンプのチャンネルAとBの操作

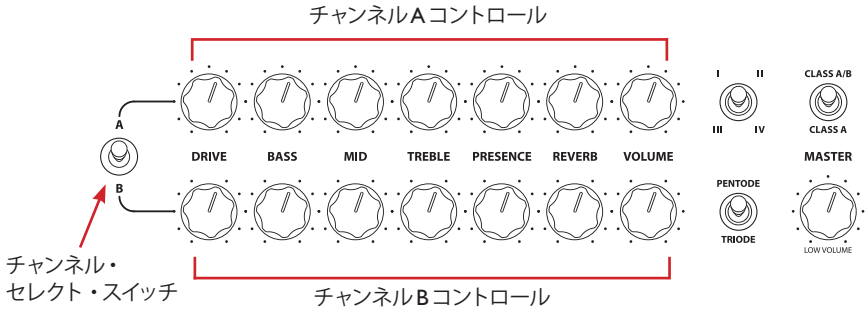
SETUPページの「**L6 LINK：CONTROL**」画面で、AMP 1からAMP 4が「AMP A」または「AMP B」に設定されているとき、POD HDのAmp Model A/Bのオン/オフ設定に基づき、DTアンプは自動的にチャンネルA/チャンネルBを切り替えます。

- POD HDのAmp ModelがONのとき、それぞれのDTアンプはチャンネルAに切り替わり、動作が連動します。
- POD HDのAmp ModelがOFF（またはNONE／なし）のとき、各DTアンプはチャンネルBに切り替わります。POD HDのアンプモデルとDTアンプのチャンネルBのコントロールは連動していません。チャンネルBで使用した場合、DTアンプはプリアンプおよびトーンスタックにHDモデリング技術を使用し、スタンドアローンモードで使用した際と同様に機能します。
    - DTアンプでチャンネルBを選択し、複数のDTアンプがデイジーチェーン接続されているとき、すべてのDTアンプの**ボイシング・スイッチ**、**CLASS A/CLASS ABスイッチ**、**PENTODE/TRIODEスイッチ**は、先頭のDTアンプの設定にリンクします。
    - 2台のDTアンプが接続されているとき、チャンネルBのノブとボイシング・スイッチは両方のアンプで連動しますが、Master Volumeノブの動作は独立しています。

同様に、DTアンプのフロントパネルのチャンネルA/Bセレクト・スイッチ（またはDTアンプのチャンネルA/Bセレクト・フットスイッチ）を切り替えると、それに応じてPOD HDのAmp Model A/Bも切り替わります。



DT50のチャンネル・セレクト・スイッチ



DT25のチャンネル・セレクト・スイッチ

- **SETUPページ**の「**L6 LINK：CONTROL**」画面のAmp Modelが、追加のDTアンプと同じ場合、すべてのDTアンプはチャンネル切り替えに反応します。

SETUPページの「**L6 LINK：CONTROL**」画面で、デフォルト以外のMIDIチャンネルに設定したとき（AMP A/AMP B**以外**に設定したとき）には、以下のような動作になります。

- POD HDのAmp ModelでAを選択したり、BをON/OFFしてもDTアンプには影響はありません。
- SETUPページの「L6 LINK：CONTROL」で同じMIDIチャンネルに設定したDTアンプ同士はシンクします。フロントパネルのチャンネル・セレクト・スイッチを切り替えると、それに応じてシンクしているDTアンプのチャンネルも切り替わります。

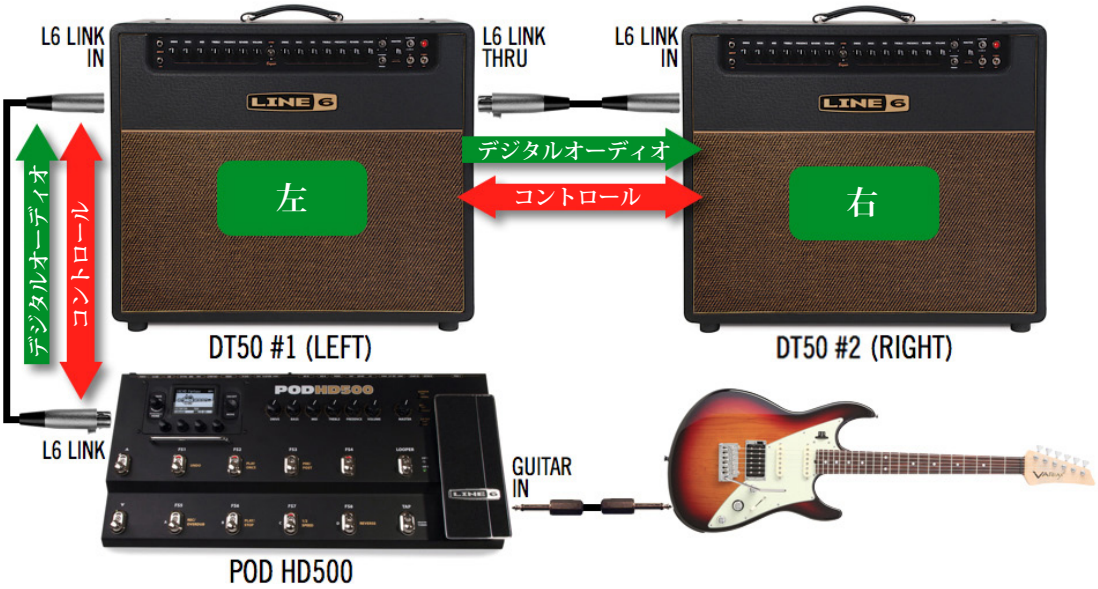
複数台のDTアンプの設定例

これまでに説明してきた内容を図解しながら、設定例をご紹介します。

下記の例ではPOD HD500とDT50のアンプを使用していますが、POD HD ProとDT25のアンプでそれぞれ代替することもできます。

ステレオ設定

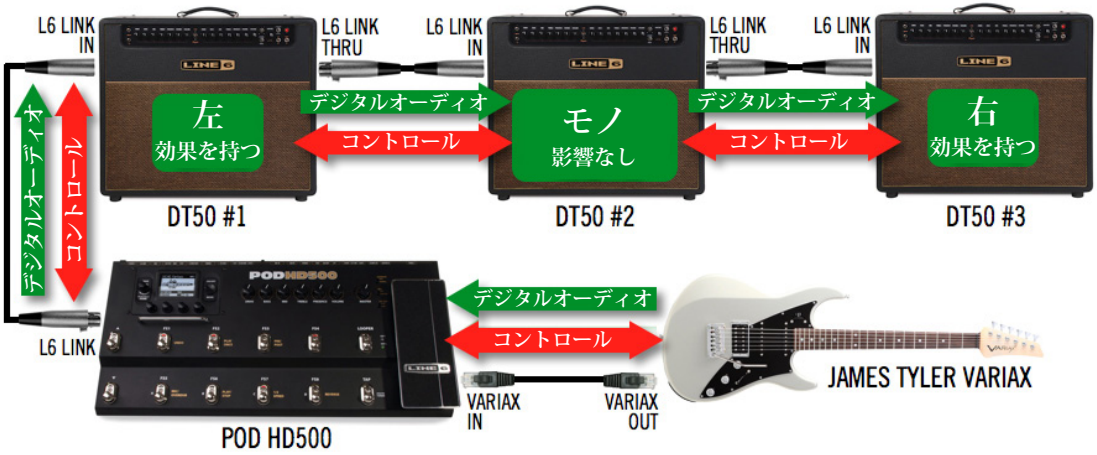
POD HD内でステレオのAmpやFX Model設定を行い、左右のオーディオ信号を2台のDTアンプに振り分けます。



2台のDTアンプを使ったステレオ・セットアップ

ウェット／ドライ／ウェットの設定

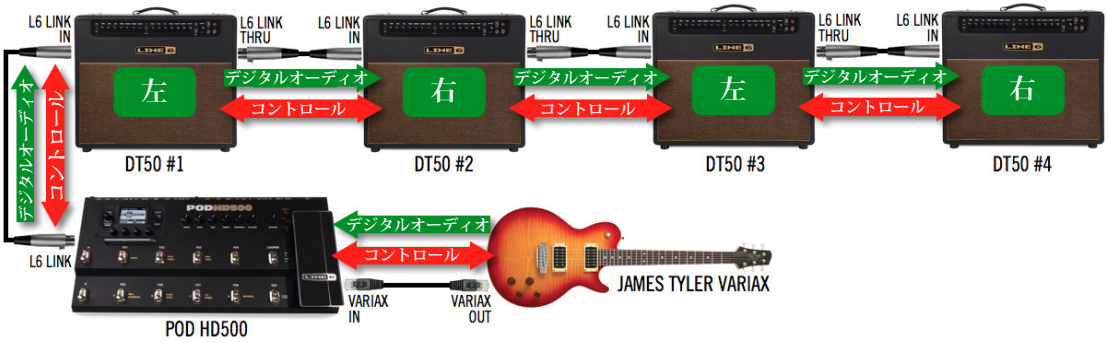
ステレオ・セットアップに3台目のDTアンプを追加し、ウェット／ドライ・セッティングを行います。



3台のDTアンプを使ったウェット/ドライ/ウェット・セットアップ

ダブルステレオ設定

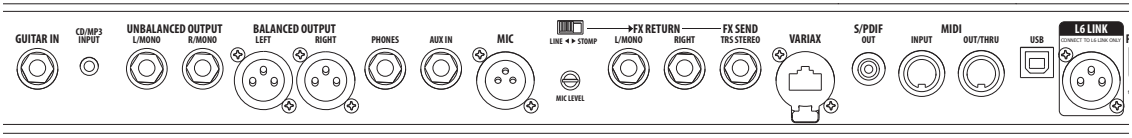
4台のDTアンプを使って、強力なダブル・ステレオ・システムを構築！



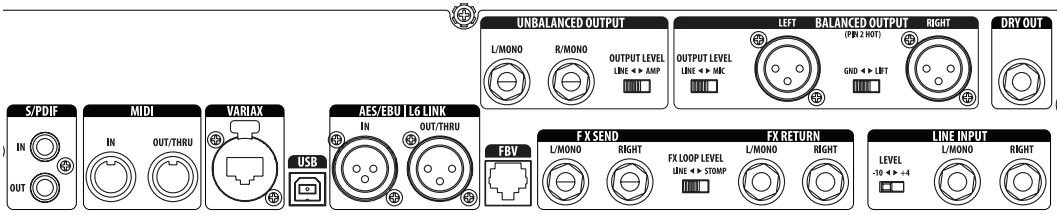
4台のDTアンプを使ったダブル・ステレオ・セットアップ

POD HD 500およびPOD HD Proの接続とオプション

経由で接続した場合、POD HD500およびPOD HD Proの背面パネルの接続や切り替えオプションの設定は若干異なり、以下のようになります。（詳しい情報は追加のPOD HD500およびHD Proの関連文書をご覧ください www.line6.jp/support/manuals）。



POD HD500の背面パネルの接続端子



POD HD Proの背面パネルの接続端子

インプットソース

ギター、**マイク**、**VARIAX**（POD HD500のみ）および**LINE**（HD Proのみ）のインプットは、POD HDデバイスのSETUP：INPUTS画面で設定したインプットしか使用できません。インプットからの信号はPOD HDデバイスのメイン・アウトプットと同様に**L6 LINK**のアウトプットに送られます。

同じように、POD HD Pro **SPDIF**および**AES/EBU**のデジタル・インプットも使用できますが、他のインプット・ソースと同時に選択することはできません。

アウトプット

BALANCED、**UNBALANCED**、**PHONES**のアナログ・アウトプットはL6 LINK接続がアクティブなときにも提供され、同時に使用できます。レベルはPOD HDデバイスのMaster Volumeノブを使ってコントロールできますが、L6 LINK－DTアンプのレベルはコントロールできません。

L6 LINKがアクティブの場合、**DRY OUT**（HD Proのみ）からは未処理のドライの信号が送り出されます。これは録音システムに「ありのまま」の信号を送りたい場合に大変便利です。

注：POD HD + DTアンプをお使いの際、PAやレコーディング・システムに直接アナログのライン信号を出力したい場合は、DTアンプ背面DIRECT OUTを使用することをお勧めします（[4•5] ページをご覧ください）。

SPDIFおよび**AES/EBU**（HD Proのみ）のデジタル・アウトプットにもPOD HDで処理された信号が送られます。SETUP：DIGITAL OUTPUT画面でどの信号を使用するかを選択します。**AES/EBU L6 LINK**アウトプットは、AES/EBUのデジタル・オーディオ**もしくは**L6 LINKのアウトプットのいずれかで使用するための接続であることにご注意ください（L6 LINK－DTアンプ接続がアクティブの場合、HD ProのSETUP：DIGITAL OUTPUT画面の設定は影響されません）。

USB

L6 LINKがアクティブの場合もUSB機能は全て機能するため、POD HD Pro Editソフトを同時に使用することも可能です。

エフェクト・ループ

エフェクト・ループに接続された外部デバイスの信号も、**L6 LINK**経由で外部出力されるオーディオに反映されます。お気に入りのペダルやラック・エフェクターなどを組み込んでみましょう。

FBV（POD HD Proのみ）

対応しているLine 6 FBV™シリーズのフット・コントローラーをここに接続することにより、POD HD Proの機能（L6 LINKを使用しているかどうかに関わらず）を足下でコントロールできます。また、FBVをMIDIコントローラーとして使用することも可能です。以下をご覧ください。

MIDIインとアウト

POD HD500およびHD Proは、MIDIのDIN端子を使ってMIDI信号の送受信を行うことができ、L6 LINK接続がアクティブな場合にもMIDI信号を送受信し続けます。詳細はPOD HD**アドバンスド・ガイド**をご覧ください。

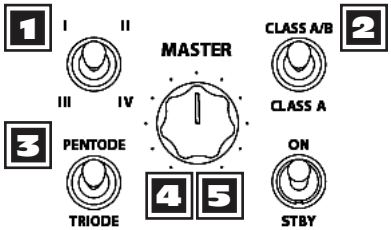
注：DTシリーズのアンプをL6 LINKと使用する際、上記のMIDI接続をする必要はありませんが、MIDI経由でDTアンプをコントロールすることも可能です。[4•6] ページの「MIDIインプリメンテーション」**をご覧ください。**

DTシリーズのアンプ

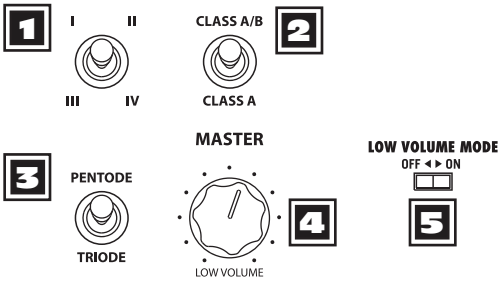
この章では、POD® HD300/400/500およびHD ProとL6 LINK™接続を行う際に重要なLine 6 DTシリーズのアンプのパラメータや機能について解説します。また、DTシリーズのアンプをMIDIでコントロールする際のヒントも記載されています。

DTシリーズのアンプのパラメータ

以下はDT50およびDT25アンプ特有のパラメータの説明です。L6 LINK接続をした場合、アンプのアナログ・コンポーネントはPOD HDアンプまたはPreamp Modelのベースとなっているクラシックなアンプに順応するようになっています。さらに、マニュアル・セッティングによって自分好みのカスタマイズしたアンプ・トーンを設定することもできます！



DT50パワーアンプのパラメーター



DT25パワーアンプのパラメーター

注：これらのDTアンプのパラメータは、POD HDの操作画面からは直接操作できません。アンプのフロントパネルのコントロールを調整するだけでこうした設定情報がL6 LINK経由でPOD HDに送られ、現在のPOD HDプリセットにセーブされます！

1 ボイシング・スイッチ

このスイッチで、クラシックな真空管アンプで使われている4種類の真空管パワー・アンプ回路（負帰還ループ・トポロジー）を切り替えることができます。それぞれのアンプの設計値である負帰還率や回路がアンプのキャラクターを決定付けます。ボイシング・モードごとにゲインも設定されており、POD HDを「Preamp Model」に設定してボイシング・スイッチを切り替えると音色と音量の変化を聞くことができます

- **ボイシングI** ……負帰還率が高く、タイトでクリーンなサウンド
- **ボイシングII** ……負帰還率は中程度で、ルーズな感じのサウンド
- **ボイシングIII** ……負帰還率はゼロで、歪みの少ないオープンなサウンド
- **ボイシングIV** ……“モダン”な感じで、低周波は負帰還率はゼロ、中・高周波は“ルーズ”な感じのサウンド

2 Class AB－Aスイッチ

このスイッチで、DTアンプのバイアスのかけ方と出力、動作クラスを設定します。これらもクラシックな真空管アンプそれぞれの全体的なトーンやフィーリングの違いを生み出しています。

DT50

- **Up（上）** ……固定バイアス、50W、Class AB
- **Down（下）** ……カソード・バイアス、25W、Class A

DT25

- **Up（上）** ……固定バイアス、25W、Class AB
- **Down（下）** ……カソード・バイアス、10W、Class A

3 Pentode/Triodeスイッチ（5極管/3極管切り替えスイッチ）

このスイッチでパワー管の状態を切り替えます。

- **Up（上）** ……**PENTODE**　5極管モードに設定します。よりハイパワーで、タイトかつパンチのある反応が得られ、ハイエンドはよりブライトなサウンドになります。このセッティングは、大音量での演奏で好まれるサウンドになります。
- **Down（下）** ……**TRIODE**　3極管モードに設定します。よりローパワーで、ややソフトな感じになり、ハイエンドのブライト感も減ります。PENTODEに比べて、全体的な音量が小さく感じられます。

4 マスター・ボリューム

現在使用されているアンプのチャンネルに関わらず、DTアンプのチューブ・アンプのマスター・ボリュームをコントロールします。

5 ロー・ボリューム・モード・スイッチ

現在使用されているアンプのチャンネルに関わらず、DTアンプのチューブ・アンプのマスター・ボリュームをコントロールします。

DTアンプのパラメーターのTips

こうしたオプションを備えるDTシリーズのアンプでは、アナログ回路を大胆に再構成することが可能です。様々なセッティングの実験を自由に行うことが可能ですが、ここではアンプの特性を理解し、POD HDのAmp Modelとの組み合わせによりどのようなsサウンドが期待できるかを紹介しておきましょう。

POD HDのプリアンプ・モデルとフルアンプ・モデル

- 通常POD HDとDTを組み合わせた場合、POD HDのPreamp Modelを使うことで最も本格的なサウンドを得られます。DTアンプではそれに適したパワー・アンプのセッティングを選ぶようにします。

POD HD Preamp Modelでは、そのデザインにより、音量レベルの変化が非常に大きくなっています。そのため、Preamp Modelのドライブとボリュームのノブの調整には十分に時間をかけ、特にライブ演奏で使用する場合はそのセッティングをプリセットに保存しておくことを推奨します（プリセットのロード方法は以下を参照）。s

Class AB動作とClass A動作

- Class AB動作とは、波形の上半分と下半分をペアにしたパワー管で交互に増幅する方法です。1本の真空管が動作している間はもう1本の真空管は動作していません。これにより特有の歪みを生じさせます。Class ABアンプはClass Aアンプに比べ2倍の出力を得られます。小音量でより歪ませたい場合は、Class A動作を使ってみてください。

DT50アンプ設定のプリセットの読み込みについて

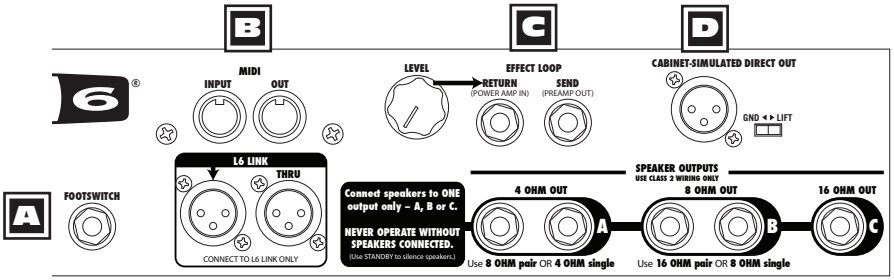
DT50で使用されている高電圧コンポーネントにより、アンプの切り替えの一部には少し時間がかかるものがあります。例えばライブ演奏時のように2種類のプリセット（またはDT50アンプのチャンネル）間をスムーズに切り替えたい場合は、両方に同じボイシング設定を使うのが良いでしょう。大幅な変更が必要な場合は、以下のTipsを参考にしてください。

＊注：DT25はより低い電圧コンポーネントを使用しているため、切り替えによる影響は通常あまりありません。もし切り替えが思うようにスムーズにいかない場合は、以下の手順をDT25でも行うことができます。

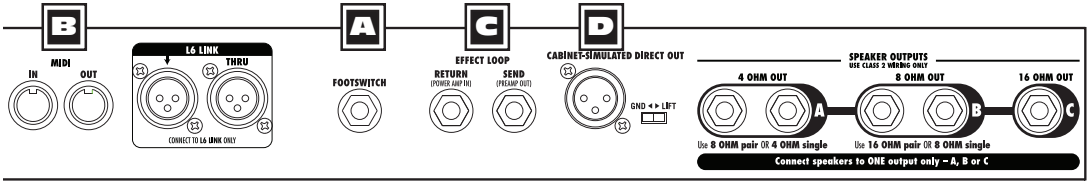
- 連続してプリセットを切り替える場合にはClass Aの設定を維持するようにしてください。音切れを防ぐことができます。
- The Super O、Tweed B-man、Class A-15、Brit Plexi J-45には共通する部分（アナログB＋電圧）があり、これらは他のPOD HD Amp Modelとは異なっています。音切れを防ぐためには、これらのAmp Model内で切り替えを行い、他のPODのAmp Modelとは切り替えないようにしてください。
- 特に動作クラスや上記のB+電圧の変更を伴う場合には、セッティング変更を5秒以内に行わないでください。DT50の回路は、こうした変更の際、安定するまでに最大5秒が必要であり、その間に再度変更を行うと不要な音切れが発生する場合があります。

DTシリーズのアンプの追加機能

DTアンプをチャンネルAやBで使用している際には、以下の機能を利用できます。POD HDのトーンを使用している際に、こうした機能を活用することで、さらにサウンドのオプションが得られます！こうした機能の詳細はDT50およびDT25のドキュメントをお読みください。



DT50の背面パネルの接続



DT25の背面パネルの接続

A Footswitchフットスイッチ

DTアンプのチャンネルA/Bを切り替えるスイッチ（別売オプション）を接続します。DTアンプのチャンネル選択の状態はPOD HDのプリセット内へ保存されます。

B MIDI イン/アウト

DTアンプの**MIDI IN**と**MIDI OUT**端子、DTアンプのMIDI送受信機能は、POD HD－L6 LINK接続が有効な場合にも使用できます*。

POD HDがL6 LINKで接続されている場合は、DTアンプ間をMIDIケーブルで接続する必要はありません。全ての「コントロール」コミュニケーションは、L6 LINK接続を使用して自動的 にルーティングされます。また、DTアンプのさまざまな機能にアクセスするために、MIDIコントローラーを使用することも可能です。*［4•6］ページの「MIDIインプリメンテーション」****をご覧ください。**

C DTアンプのエフェクト・ループ

ここに用意されている**SEND**、**RETURN**ジャックは、シリーズ接続されるアナログの**エフェクト・ループ**となります。ここに接続されたエフェクトは、シグナルがDTアンプのパワー・アンプ段へ送られる前に適用されます。

D ダイレクト・アウト

DTアンプの**DIRECT OUT**は、L6 LINKが使用されている場合もアナログ出力として機能します。POD HD＋DTアンプで作り上げたトーンを外部レコーダーやミキシング・コンソールへ送る場合には、このXLR出力を使うことを推奨します。L6 LINK経由でDTアンプへ送られるオーディオ信号はモノであるため、このダイレクト・アウトもモノ・シグナルです。DTアンプがスタンバイ状態でもダイレクト・アウトが使用できるので、音量を上げずにレコーディングをしたい場合も最適です。

DTアンプを単体、またはPOD HDを接続して使用する場合も、外部レコーダーやミキサーなどに信号を直接送るにはアンプの**ダイレクト・アウト**を使用するのが最適です。L6 LINKを使用する際、**ダイレクト・アウト**からはPOD HD＋DTアンプで完全に処理された音色が送られます。L6 LINK経由でDTアンプに送られる信号はモノであるため、ダイレクト・アウトからの信号もモノです。DTアンプがスタンバイ状態でもダイレクト・アウトが使用できるので、音量を上げずにレコーディングをしたい場合も最適です。

***DT25がスタンバイ・モードに入っている場合、ダイレクト・アウトの信号を得るためにはアンプの背面のスイッチでロー・パワー・モードを「オン」にする必要があります。DT50は、スタンバイ状態になっていると自動的にロー・パワー・モードに入り、ダイレクト・アウト信号を出力します。**

MIDIインプリメンテーション

DTシリーズのアンプの多くは、L6 LINKの代わりにアンプの背面の**MIDI IN**端子にMIDIコントローラーを接続し、MIDI経由でコントロールすることが可能です。下記のMIDI参照図にあるように、MIDI CC番号や数値を送信するようMIDIコントローラーを設定する必要があります。

また、DTシリーズのアンプは**MIDI OUT**端子から同じMIDI CC番号や数値を送信します。複数台のDTシリーズのアンプもシンクして同時にコントロールすることができます（1台目のアンプの**MIDI OUT**から2台目の**MIDI IN**に接続する等）。

DT Series Amplifiers - MIDI Control Reference			
MIDI CC #		Value	Function
Amp Channel A	Amp Channel B		
77	114	0 = Voicing I, 1 = Voicing II, 2 = Voicing III, 3 = Voicing IV	Negative Feedback Loop Topology (I, II, III, IV)
73	115	0-63 = Class A, 64-127 = Class AB	Operation Class Configuration (Class A / Class AB)
75	116	0-63 = Triode, 64-127 = Pentode	Power Tube Configuration (Pentode/Triode)
13	92	0-127 = Adjust range 0% to 100%	Drive Knob

DT Series Amplifiers - MIDI Control Reference			
MIDI CC #		Value	Function
Amp Channel A	Amp Channel B		
14	93	0-127 = Adjust range 0% to 100%	Bass Knob
15	94	0-127 = Adjust range 0% to 100%	Mid Knob
16	95	0-127 = Adjust range 0% to 100%	Treble Knob
21	102	0-127 = Adjust range 0% to 100%	Presence Knob
17	103	0-127 = Adjust range 0% to 100%	Volume Knob
18	106	0-127 = Adjust range 0% to 100%	Reverb Knob
36	105	0-63 = Reverb Off, 64-127 = Reverb On	Reverb On/Off
Global Controls			
19		0-63 = Channel A, 64-127 = Channel B	Channel A/B Toggle
85		0-63 = LVM Off, 64-127 = LVM On	Low Volume Mode On/Off
20		0-127 = Adjust range 0% to 100%	Master Volume